

山梨県スポーツ振興実施計画

— 健康で明るい生活を支える豊かなスポーツライフの実現を目指して —



平成 2 1 年 3 月
山 梨 県 教 育 委 員 会
ス ポ ー ツ 健 康 課

はじめに



スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の文化の一つです。心身の両面に影響を与える文化としてのスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要な不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな意義を有しています。

山梨県では、「暮らしやすさ日本一の県づくり」を基本理念とする「チャレンジ山梨行動計画」の基本目標「はぐくむ・やまなし」の実現の中で、明るく活力に満ちたスポーツの振興や学校における食育の推進を図っています。

また、山梨県教育委員会では、「やまなしの教育振興プラン」を平成21年2月に策定しました。この計画は、平成21年度から25年度までの向こう5年間の教育基本計画であり、「ふるさとを愛し、世界に通じる人づくり」を基本理念としています。山梨の未来を担う子どもたちが、ふるさとの自然や人々とふれ合い、夢や希望を持ち意欲的に学び、学力や心の豊かさ、たくましさを身に付けられる教育環境を整えるとともに、文化やスポーツの振興を図り、県民が生涯を通じて生きがいを持って学ぶことができる社会づくりに取り組むことによって、ふるさとを愛し、世界に通じる人づくりを目指します。

この教育振興プランにおけるスポーツ部門の施策の方向は、基本目標である「個性を生かし、生きる力を育むやまなし人づくり」と「豊かで潤いがあり、明るく活力に満ちたやまなし社会づくり」の中に示され、前者においては、「健やかな体の育成」を、後者においては「生涯スポーツの振興」「競技スポーツの振興」を施策としています。

これらの3つの施策の共通する基本理念を「健康で明るい生活を支える豊かなスポーツライフの実現」とし、各施策の連携を図りながら本県のスポーツ振興を具現化するため、「山梨県スポーツ振興実施計画」を策定しました。本計画は、県民のスポーツに関する現状と課題を探り、施策の方向を導き出すとともに事業の概要を示すことにより、県民にわかりやすい内容となるよう努めました。

生涯スポーツ社会の実現には、県はもとより、市町村やスポーツ関係団体、そして県民の一人一人がスポーツを身近なものとして考え、一体となった取組を推進することが何より重要となりますので、県民の皆様をはじめ関係各位のなお一層の御理解と御協力をお願い致します。

スポーツ健康課

課長 今井 三千雄

目次

序 章 計画の策定にあたって

1	スポーツの意義	1
2	計画の推進方策	2
(1)	計画策定の趣旨	
(2)	事業の推進について	
(3)	期間及び進行管理	

第 1 章 山梨県のスポーツの現状と課題

1	県民のスポーツに関する意識・活動の様子について	3
(1)	一般県民について	
①	健康・体力に関する意識	
②	運動・スポーツの実施状況	
③	地域スポーツ行事に関すること	
④	学校時代の運動・スポーツに関する意識	
⑤	スポーツクラブのあり方	
⑥	スポーツ観戦・ボランティア・公的支援について	
⑦	地域スポーツの振興に関すること	
(2)	学校体育と健康教育について	5
①	児童生徒の体力の実態	
②	生活習慣の実態と体力との関係	
③	児童生徒の健康状態の実態	
④	児童・教員・保護者の運動に対する意識	
⑤	学校における体育活動等の状況	
(3)	生涯スポーツについて	7
①	総合型地域スポーツクラブに関する意識について	
②	地域社会におけるスポーツに関する意識・活動について	
③	スポーツ施設とスポーツ振興についての要望	
④	スポーツ行政・スポーツ振興に関して	
(4)	競技スポーツについて	10
①	競技団体への調査について	
②	競技指導者への調査について	
③	競技選手への調査について	

2	スポーツ振興の基本的課題と基本理念	・・・・・・・・	13
(1)	山梨のスポーツ振興の基本的課題		
(2)	山梨のスポーツ振興の基本理念		

第2章 山梨県のスポーツ振興の基本的な考え方

1	基本的方策	・・・・・・・・	14
2	具体的施策の方向	・・・・・・・・	15
3	体系および概要	・・・・・・・・	24

別添資料 山梨県のスポーツ振興施策の推進（推進事業の概要）

〔健やかな体の育成〕

学校体育・スポーツの充実

健康・安全教育の推進

食育の推進

〔生涯スポーツの振興〕

参加機会の充実

指導・推進体制の充実

スポーツ環境の充実

〔競技スポーツの振興〕

競技力の向上

指導体制の充実

一 序 章



- 1 スポーツの意義
- 2 計画の推進方策

1 スポーツの意義



多様な意義を有する文化としてのスポーツは、現代社会に生きるすべての人々にとって欠くことのできないものとなっており、性別や年齢、障害の有無にかかわらず県民一人一人が自らスポーツを行うことにより心身ともに健康で活力ある生活を形成することが期待されます。

スポーツを自ら行うことのほか、スポーツをみて楽しむことは、スポーツの振興の面だけでなく、県民生活の質的向上やゆとりある生活の観点からも有意義なことです。また、ボランティア等でスポーツを支援することは、スポーツの振興に積極的にかかわりながら、自己開発、自己実現を図ることを可能とします。このようにスポーツへの多様なかかわりを通じて、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していくことが望まれます。

○ 個人的な意義

高齢化の急速な進展や、生活が便利になること等による体を動かす機会の減少から、生涯にわたりスポーツに親しむことができる豊かなスポーツライフを送ることは大きな意義がある。

- ・ 体を動かすという人間の本源的な欲求を満たす。
- ・ 爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす。
- ・ 体力の向上や、精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に役立つ。

○ 社会的な意義

次のような社会的意義を有するスポーツの振興を一層促進していくための基盤の整備・充実は、県の重要な責務の一つである。

- ・ 自己責任、克己心やフェアプレイの精神を培うとともに、仲間や指導者との交流を通じて、青少年のコミュニケーション能力を育成し、豊かな心と他人に対する思いやりをはぐくむ。また、子どもたちの精神的なストレスの解消にもなり、多様な価値観を認めあう機会を与えるなど、青少年の健全育成に役立つ。
- ・ 住民が、スポーツを通じて交流を深めることにより、一つの目標に向い共に努力し達成感を味わうことや地域に誇りと愛着を感じ、地域の一体感や活力が醸成され人間関係の希薄化などの問題を抱えている地域社会の再生につながる。
- ・ 人間の可能性の極限を追求する競技者のスポーツに打ち込むひたむきな姿は、県民に夢や感動を与えると共に、県民のスポーツへの関心を高め、活動への参加意欲を促すなど、活力ある健全な社会の形成に貢献する。
- ・ スポーツを振興することにより、スポーツ産業の広がりや、県民の心身両面にわたる健康の保持増進に大きく貢献し、県民経済に寄与することとなる。
- ・ 同一のルール下で互いに競うことにより、全国及び世界の人々との相互の理解や認識を一層深めることができるなど、友好と親善を深める役割を果たす。

2 計画の推進方策



(1) 計画策定の趣旨

この計画は、「やまなしの教育振興プラン」のスポーツ部門の基本理念である「健康で明るい生活を支える豊かなスポーツライフの実現」を推進していくため、主要な事業やその実施プログラムを教育振興プランの体系に沿って示すとともに、施策・事業の適切な進行管理を行うことをねらいとするものです。

(2) 事業の推進について

「健康で明るい生活を支える豊かなスポーツライフの実現」は県の実施事業だけでなく、国や市町村、民間諸団体や企業などが行う様々な活動、さらに県民が一体となって築かれるものです。このため、この計画に掲げる事業の推進に当たっては、国、市町村等の理解と協力を求めるとともに、あらゆる機会を通じて県民の主体的な参画が得られるように努めていきます。さらに、事務事業の見直し、事業改善、組織や機構の簡素合理化など、行財政改革への取り組みを一層進めながら、施策実現に必要な事業の積極的な推進に努めていきます。

また、行政だけでなく、個人や家庭、地域社会、更に大学や企業などの民間の活力が大きな推進力となります。このため、この計画に掲げる事業の推進に当たっては、関係機関が行う支援や助成などを積極的に活用し、民間活力が十分発揮できるよう官民一体となった事業の促進に努めるとともに、様々な形で民間活力の導入を図ります。

(3) 期間及び進行管理

計画の期間は、平成21年度から平成25年度までの本県教育振興の基本計画である「やまなしの教育振興プラン」のスポーツ部門に基づき、平成21年度から平成25年までの5か年計画とします。5年後に新たな計画を策定し、社会情勢の変化や県民のスポーツに対する意識及び価値観に対応します。

今後5年間、計画で掲げる事業の着実な実施を図るため、常に計画の達成状況や問題点を把握し、適切な進行管理を行います。急速に変化する社会情勢の中で日々刻々と変化するスポーツの課題に迅速かつ的確に対応するため、山梨県スポーツ振興審議会に意見を聴き、適時適切に新しい課題に対する検討を進め、特段の事由がある場合には計画の一部を見直すこととします。

－ 第1章 －

山梨県のスポーツの現状と課題



- 1 県民のスポーツに関する意識・活動の様子について
- 2 スポーツ振興の基本的課題と基本理念

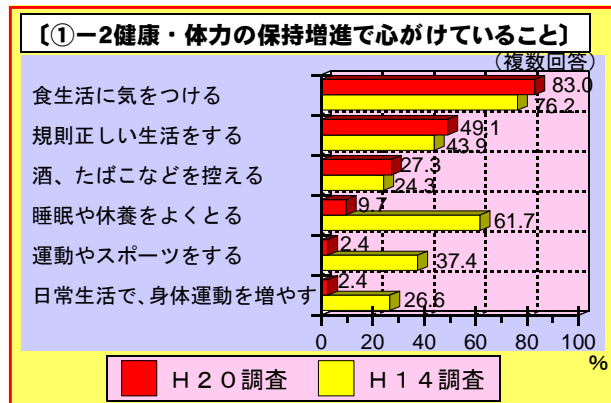
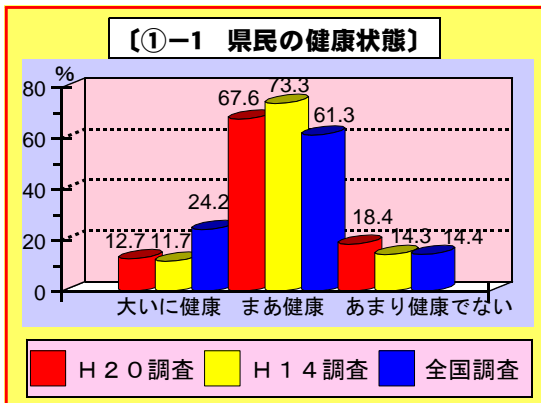
1 県民のスポーツに関する意識・活動の様子について



(1) 一般県民について 「県民のスポーツに関する意識・活動調査」 H20.1 実施
(調査対象：一般県民)

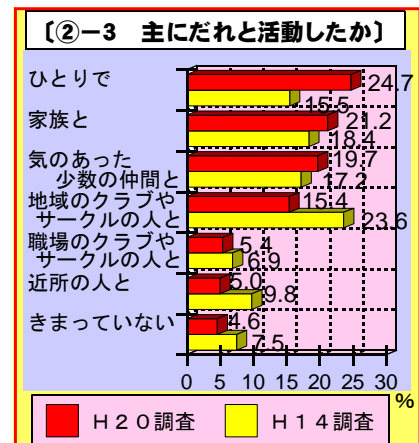
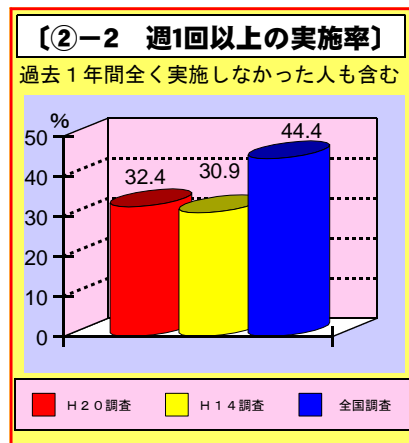
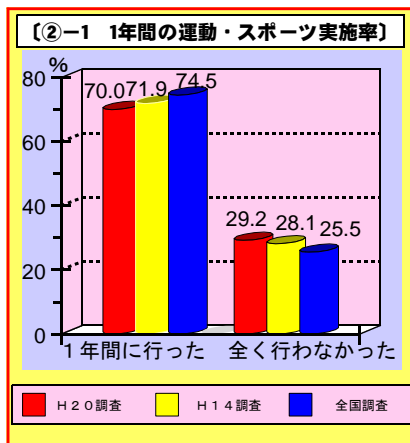
① 健康・体力に関する意識

- 「あまり健康ではない」県民が増えている。また、体力に「不安に思っている人」や「衰えを感じている人」が増加し、「運動不足」や「肥満を感じている人」が増えている。
- 自分の健康や体力に「注意を払っている人」が増えているが、直接、体を動かして、健康・体力の維持や増進を心がけている人が極端に少なくなっている。



② 運動・スポーツの実施状況

- 過去1年間の運動・スポーツの実施率が低下し、全国よりも低く、過去1年間に全く運動・スポーツを行わなかった人が増えている。理由として、「忙しくて時間がない」「参加機会に恵まれない」「仲間がいない」等があげられる。ただ、週1回以上の実施率(32.4%)は増加している。
- 1回あたりの実施時間が短くなっている。これは、過去1年間で行った運動の上位を見ると、「ウォーキング」「体操」「軽い球技」となり、身近で、手軽にできるものを実施している。
- クラブやサークルの仲間との活動が減り、「ひとりで」「家族と」「気のあった少数の仲間と」「地域のクラブやサークルの人と」「職場のクラブやサークルの人と」「近所の人と」「きまっていない」が増えている。



③ 地域スポーツ行事に関すること

- 地域や地区（市町村、町内会）で開かれるスポーツ行事への参加率が大幅に低下している。また、参加してみたい行事として、「運動会や球技会等の軽スポーツ」が減り、「体力テスト、スポーツテスト」等の個人に係わる行事が増えている。

④ 学校時代の運動・スポーツに関する意識

- 学校時代の運動やスポーツの楽しさは減少傾向にあるが、78.1%と、依然高い水準にある。

⑤ スポーツクラブのあり方

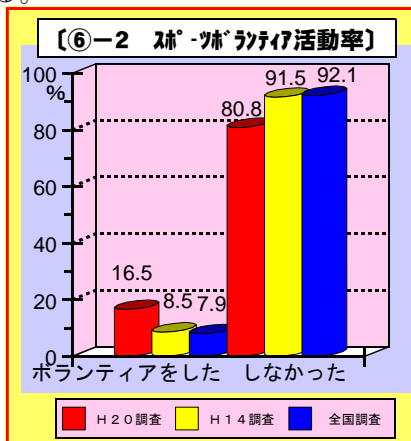
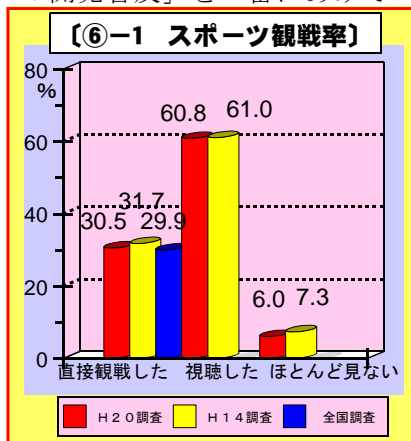
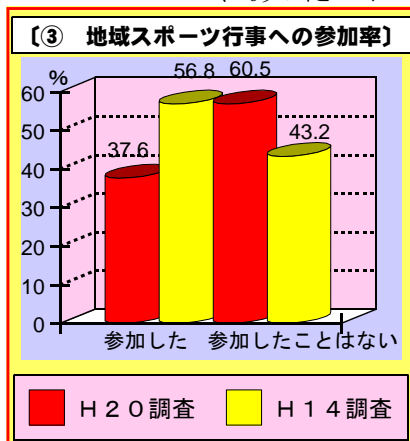
- 運動・スポーツのクラブや同好会への加入率は上がり、職場・学校のクラブへの加入が増えている。
- スポーツクラブに望む活動形態は、「多種目で、他の文化活動も体験できるクラブ」を希望している。目的として、「健康や体力の維持・増進を重視」が大幅に増えている。

⑥ スポーツ観戦・ボランティア・公的支援について

- 県民のスポーツ観戦率は、非常に高い。
- スポーツボランティアについては、全国に比べると非常に高い活動率である。
- スポーツ大会での山梨県選手の活躍への関心度(79.7%)は、若干減少している。山梨県選手への公的支援については、「指導者の養成」「試合等に参加しやすい環境作り」「経済的支援」が上位となっている。
- 公的支援によるスポーツの国際大会・全国大会の誘致は、依然、高い支持率である。

⑦ 地域スポーツの振興に関すること

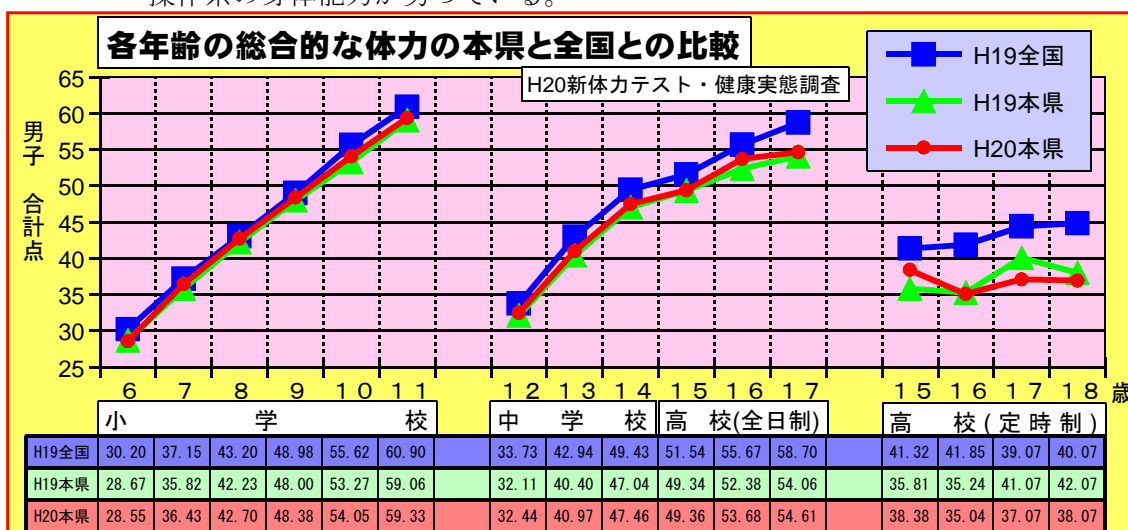
- 地域のスポーツ振興の効果については、「高齢者の生きがいがづくり」「地域のコミュニティの形成・活性化」「余暇時間の有効活用」に期待を寄せている反面、「青少年の健全育成」に対する期待が47.9%から24.3%となり、大幅に減少した。
- 公共スポーツ施設に望むことは、「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」「身近で利用できるよう、施設数の増加」に期待を寄せている。
- 山梨県のスポーツを振興させるために力を入れるべきものとして、「年齢層にあったスポーツの開発普及」を一番にあげている。



(2) 学校体育と健康教育について

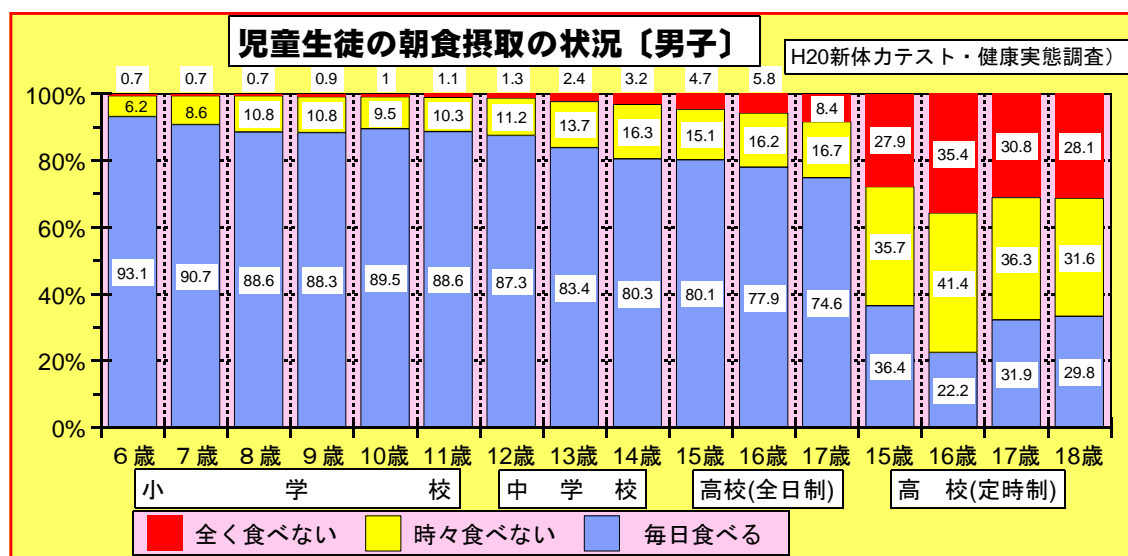
① 児童生徒の体力の実態

- 本県児童生徒の体力の推移を見ると、昭和50年代中ごろをピークに長期的な低下傾向が続いてきたが、平成18年度からは、全体的に改善傾向にある。しかし、ピーク時と比較すると依然低い水準である。
- 全国との総合的な体力を比較すると、全ての年齢で全国を下回り、本県児童生徒の体力は低い水準である。加齢とともに全国平均との差が拡大する傾向にある。さらに、小学校低学年から運動習慣の差による体力の二極化傾向が見られる。
- 児童生徒の体力・運動能力の特徴を各測定項目でみると、筋力や柔軟性など体力系の項目は全国水準であるが、敏捷性や走・跳・投といった技術を要する操作系の身体能力が劣っている。



② 生活習慣の実態と体力との関係

- 運動の実施頻度については、中学校期を境に、運動離れが進行する。また、11歳(小6)において、一旦、運動離れが起きる傾向が見られる。女子の方々が運動離れの傾向は早い。
- 朝食摂取の状況は、欠食傾向が加齢とともに増加する。中・高等学校で20～25% (約4～5人に一人)、小学校でも約10%弱が毎日朝食をとる習慣が身に付いていない。
- 睡眠時間は加齢とともに減少し、中高において顕著である。全日制高校3年生女子では、6時間未満の者が30.8%を占めている。
- 運動習慣のある児童生徒ほど体力は高い。朝食についても同様な傾向がある。



③ 児童生徒の健康状態の実態

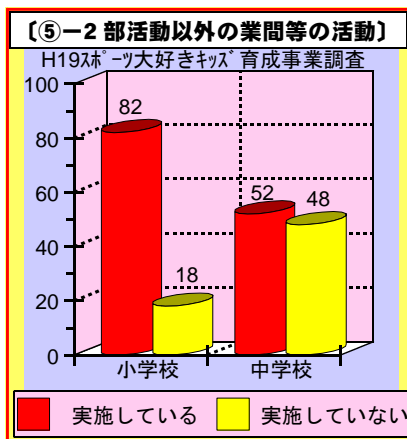
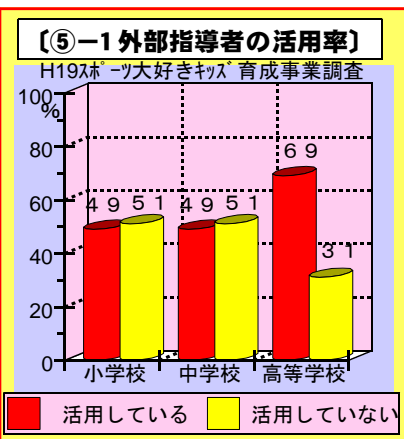
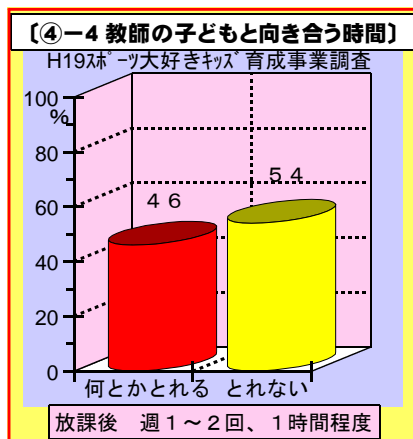
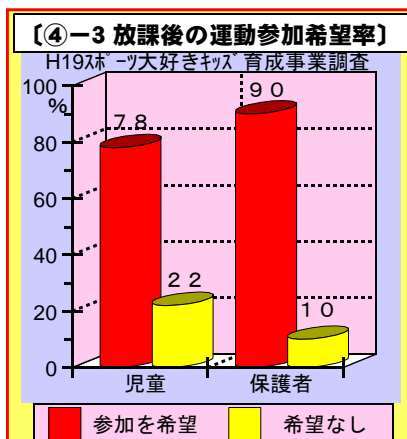
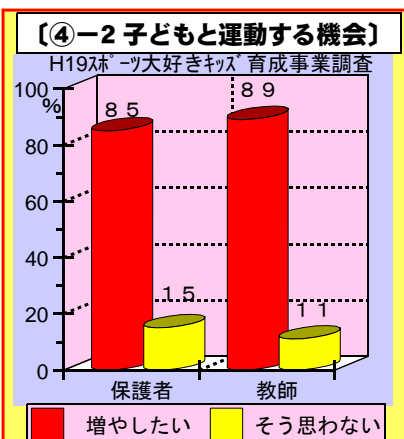
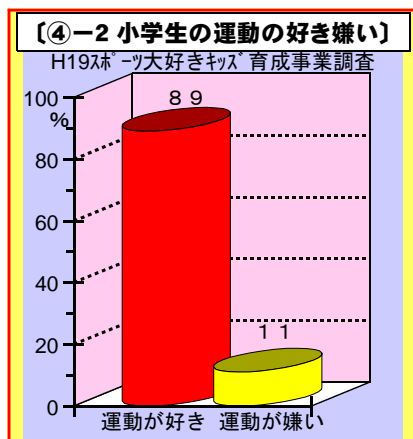
- 肥満傾向児童生徒の割合は、男女の小学生と中・高校の男子が全国と比べると高い。その割合は20年ほど前と比べると高い水準にある。近年は横ばい傾向である。
- アレルギー性疾患（アトピー等皮膚炎など）の児童生徒の割合が増加している。

④ 児童・教員・保護者の運動に対する意識

- 大人（保護者や親）は子どもに比べ、運動の機会が少なく、生涯体育・スポーツの意識が低い。教員の運動量は多い方である。
- 約90%の児童が運動好きと答えている。また、大部分の保護者や教師が子どもと運動する機会を増やしたいと感じている。
- 放課後等運動の機会があれば、参加したい児童や保護者が多く、運動に対する意識は高い。しかし、参加したくない児童の理由には習い事・スポ少・勉強が多かったが、面倒くさいという回答も予想以上に多い。
- 多忙な学校現場では、放課後等の活動の時間がとれない状況があるが、半数近くの教員が、こうした取組の可能性を認めている。外部指導者などの力を借りながら、放課後などに何とか活動の場を持つという意識が、半数以上の教員に見られる。

⑤ 学校における体育活動等の状況

- 小・中学校で約半数、高等学校では約2/3の学校で、外部指導者を活用している。小学校では主に授業や体育的行事に、中・高等学校では部活動に活用している。
- 部活動以外の業間等の活動の実施については、大部分の小学校、約半数の中学校で実施している。目的の多くは、体力づくり・仲間との交流である。



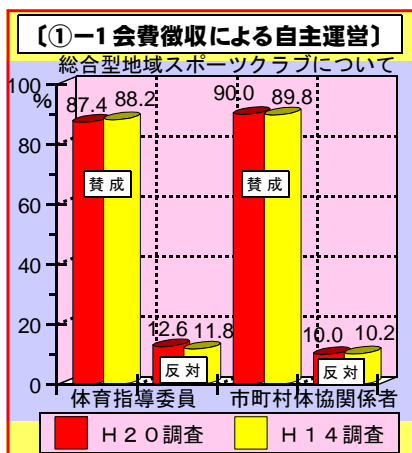
(3) 生涯スポーツについて 「県民のスポーツに関する意識・活動調査」 H20.1 実施

① 総合型地域スポーツクラブに関する意識について

(対象：体育指導員 レクリエーション協会役員 市町村体育協会関係者)

- クラブが、「会費を徴収し自主運営をしていくこと」に賛成者は、体育指導委員(87.4%)、体育協会関係者(90.0%)である。体育指導委員の反対が12.6%なり若干増えた。
- スポーツ施設の利用料金は、「301～500円」程度で、スポーツ教室の参加費は一回当たり「301～500円」程度の負担を考えている。総合型地域スポーツクラブの月会費は「501～3,000円」間でばらつきがあり、一般県民以外は、指導者に指導を受ける場合も、ほぼ同額と考えている。
- 「あなたの住む市町村に総合型地域スポーツクラブがすぐにできて欲しい」が体育指導委員(34.3%)、体育協会関係者(35.1%)で、前回調査より減少し、「他の地域の進み具合を見てじっくりできればよい」もしくは、「必要なし」がその分増加した。
- クラブの設立との関わりについては、「自ら先頭に立って設立できるようにする」(7.2%)で前回より減少し、趣旨は理解しているが設立が難しいことや、ほかの地域の動向が気になっていること等が考えられる。

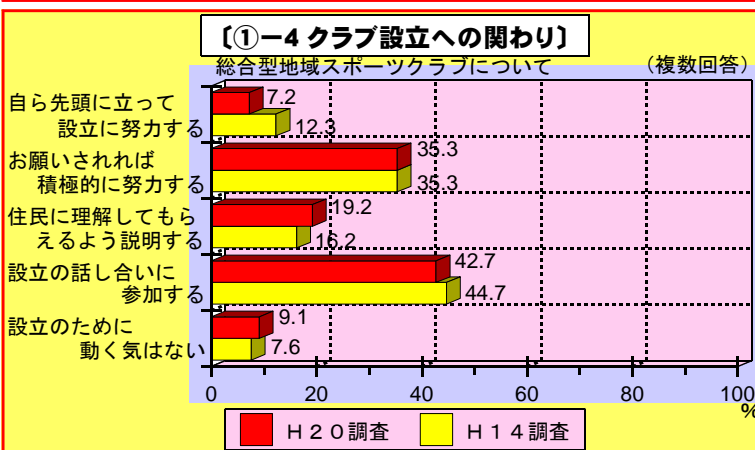
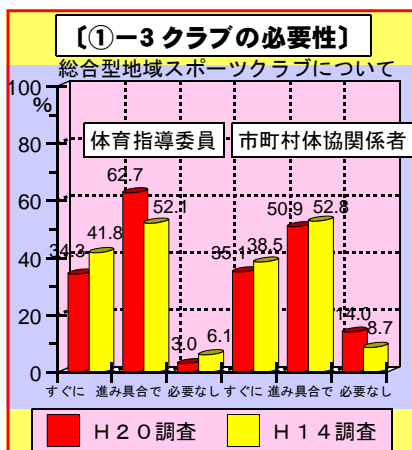
ただ、「お願いされれば積極的に努力する」「設立の話し合いに参加する」が、ともに35%を超えており、設立に対して積極的な人は少ないが、3人に一人は目的や趣旨を丁寧に説明すれば、設立に協力できるものとする。



【①-2 対象別のクラブ会費等の負担可能額について】

	1回の施設利用	スポーツ教室1回	指導なしクラブ会費	指導ありクラブ会費
一般県民	301～500	301～500	501～1000	2001～3000
体育指導委員	301～500	301～500	1001～2000	1001～2000
レクリエーション協会役員	301～500	501～1000	2001～3000	2001～3000
市町村体育協会関係者	301～500	301～500	501～1000	501～1000

表の数値：各対象における最多回答数による
クラブ会費：総合型地域スポーツクラブ会費の負担可能な額



② 地域社会におけるスポーツに関する意識・活動について

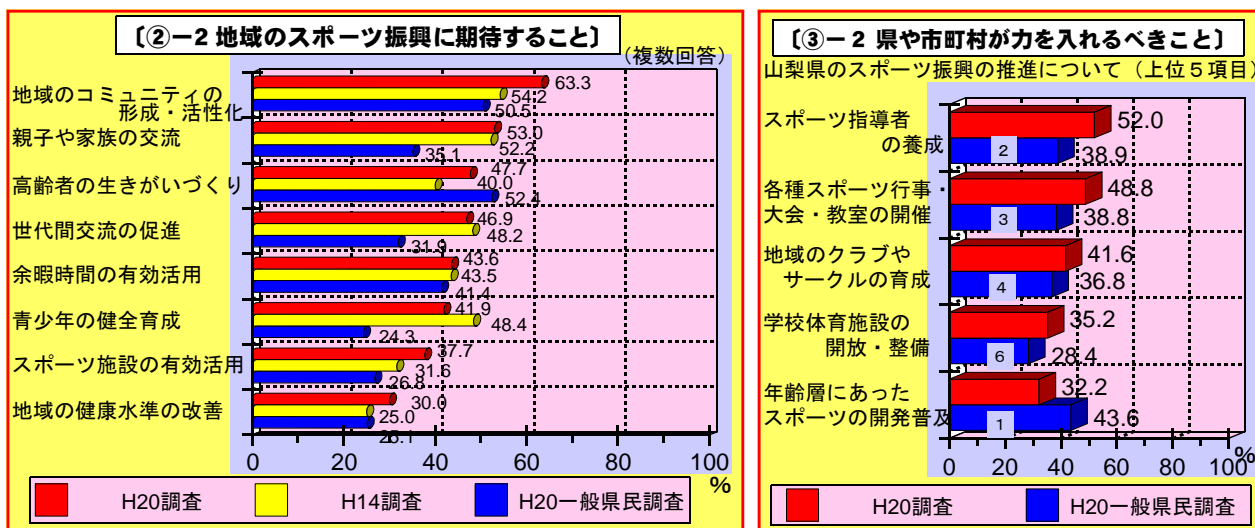
(対象：体育指導員 レクリエーション協会役員 市町村体育協会関係者)

- 地域や地区のスポーツ行事を開催する場合、「運動会や球技大会などの軽スポーツ行事」「体力づくりなどの行事」の開催が必要だと考えている。
- 地域におけるスポーツ振興には、「地域のコミュニティの形成・活性化」「親子や家族の交流」が、約50%を超え高い期待を寄せている。「青少年の健全育成」が前回より減少し、一般県民と同じく、あまり期待を寄せていない。

③ スポーツ施設とスポーツ振興についての要望について

(対象：体育指導員 レクリエーション協会役員 市町村体育協会関係者)

- スポーツ施設については、「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」「身近でできるよう、施設数の増加」を望んでいて、一般県民の考えと一致している。
- 山梨県のスポーツ振興を推進するためには、「スポーツ指導者の育成」「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」に県や市町村が力を入れるべきであると考えている。一方、一般県民は「年齢層にあったスポーツの開発普及」に力を入れてほしいと望んでいる。

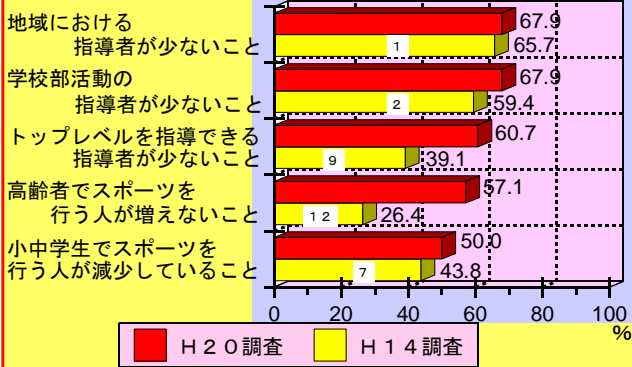


④ スポーツ行政・スポーツ振興に関して (対象：市町村教育委員会)

- 県下の市町村では、スポーツ振興を図る上での課題として、前回調査と同様に、「スポーツの指導者不足」が一番の課題となっている。また、前回よりも深刻となっているのが、「高齢者でスポーツを行う人が増えないこと」「小中学生でスポーツを行う人が減少していること」があげられる。
- 社会体育施設の管理、運営では、「施設の保全・改修が進まないこと」「整備や用具が不足していること」が問題となっている。
- スポーツを一層振興するために県に期待することは、「地域のニーズに即した指導者の養成・確保」「市町村やスポーツ関係団体に対する資金面の援助」が上位となり、前回調査と同様に高い期待を寄せている。
- 今後のスポーツ振興のあるべき姿として、「行政だけでなく、民間団体・企業・民間施設とうまく連携すべき」「教育委員会だけではなく、全庁的な取り組みとして位置づけるべき」だと多くの市町村が考えている。

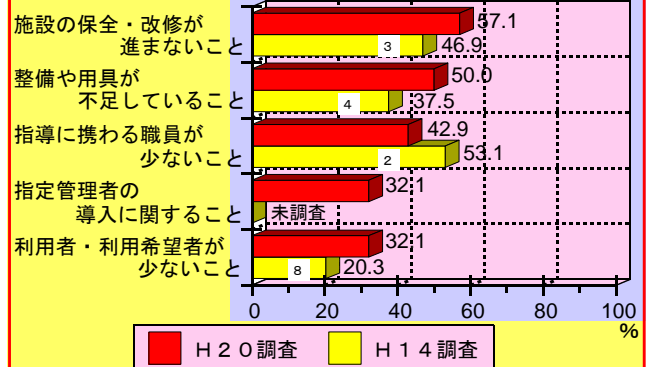
【④-1 スポーツ振興上の課題】

県下28市町村における（上位5項目）（複数回答）



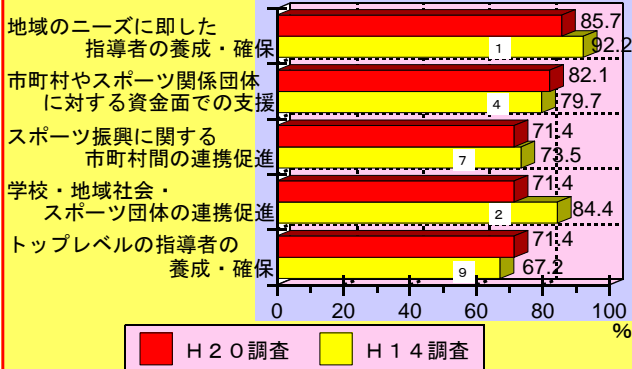
【④-2 体育施設の管理運営上の問題】

県下28市町村における（上位5項目）（複数回答）



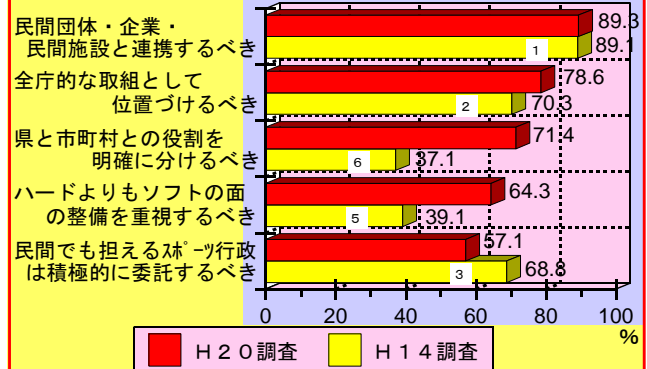
【④-3 スポーツ振興で県に期待すること】

県下28市町村における（上位5項目）（複数回答）



【④-4 県・市町村のスポーツ振興の方向性】

県下28市町村における（上位5項目）（複数回答）

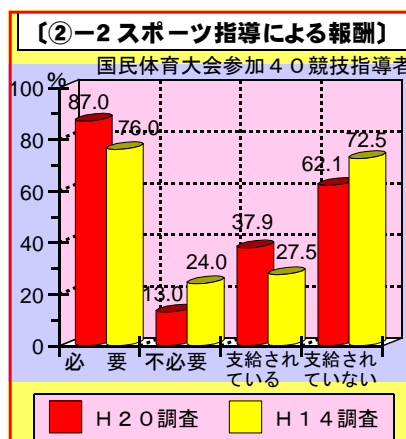
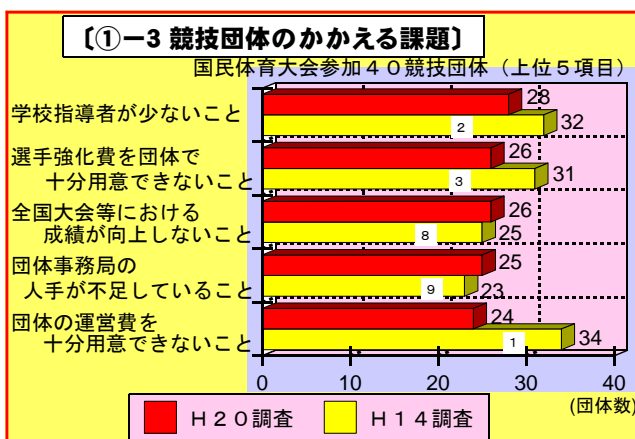
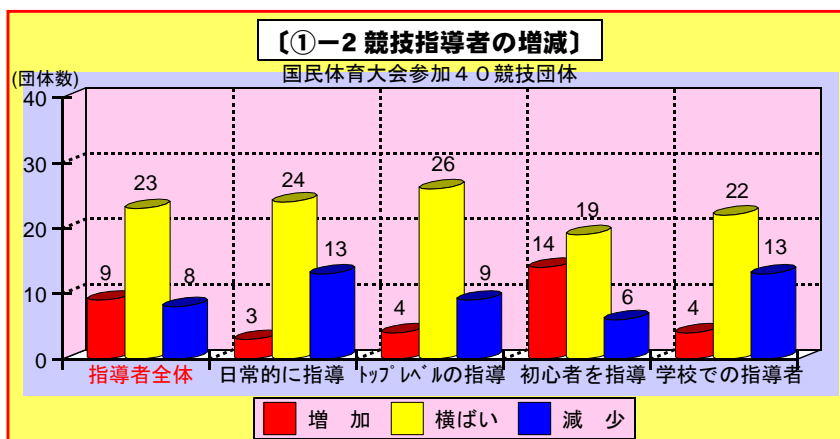
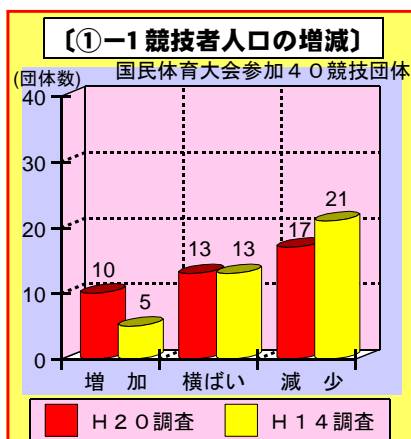


「県一周駅伝競走大会」

(4) 競技スポーツについて 「県民のスポーツに関する意識・活動調査」 H20.1 実施

① 競技団体への調査について

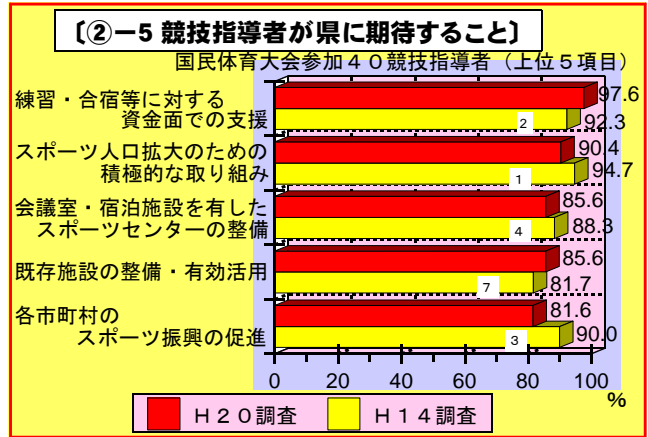
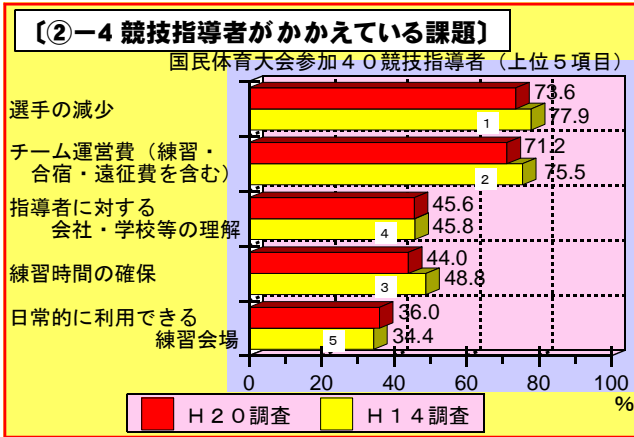
- 競技者人口全体は、減少傾向にあるが、増加している競技が10競技ある。
- 競技指導者人口全体は、横ばいである。「初心者を指導できる人」は増えているが、「日常的に指導できる人」が減少している。実質的な指導者不足が続いている。特に、学校指導者の数は、十分な数ではない。
- 競技団体が、かかえている課題は、前回調査と比べて、ほとんどの項目で減少した。ただ、半数以上の競技団体が課題として、「選手強化費を十分用意できない」「全国大会等における成績が向上しない」「競技団体の運営費を十分用意できない」「県内の競技人口が減少している（特に高校生）」「指導者が全体的に少ない（特に学校指導者）」をあげている。
- 本県のスポーツ振興の方向性については、「スポーツ振興計画に数値目標を明示し、その達成度を継続的に検証すべき」と考えている。また、事業の見直し・廃止よりも、既存の計画や事業の継続実施を期待している。



② 競技指導者への調査について

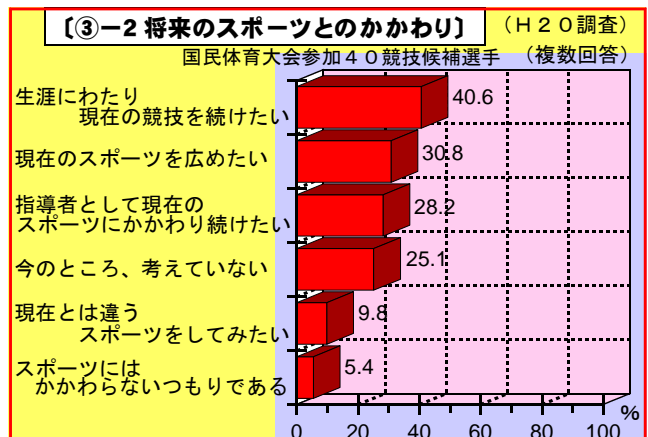
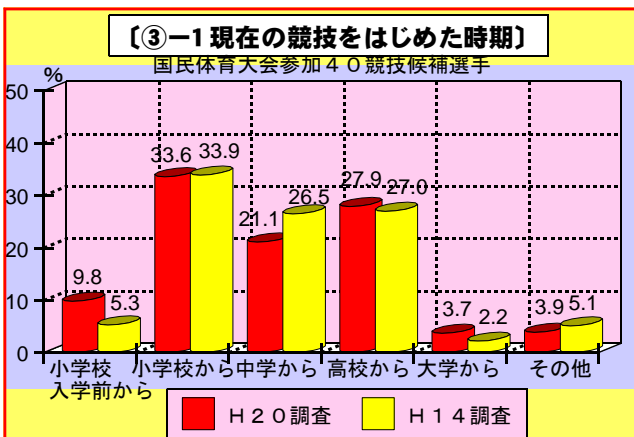
- スポーツ指導者資格の取得が47.8%から65.6%に増えている。この理由としては、国体参加資格にスポーツ指導者資格を求められていることが考えられる。
- 報酬は、「必要である」が前回調査よりも増え、実際に支給されている指導者も増えている。

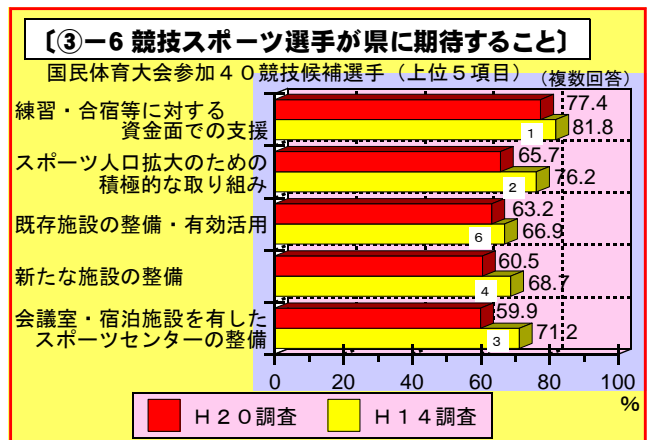
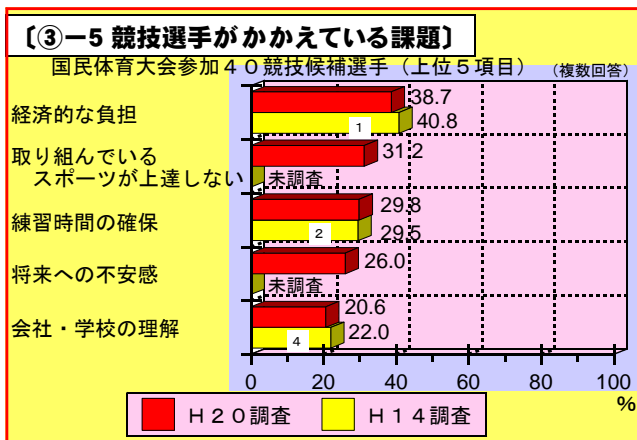
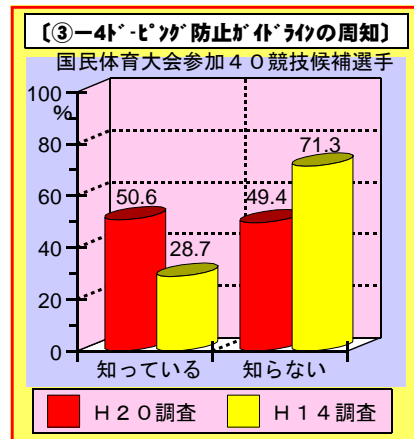
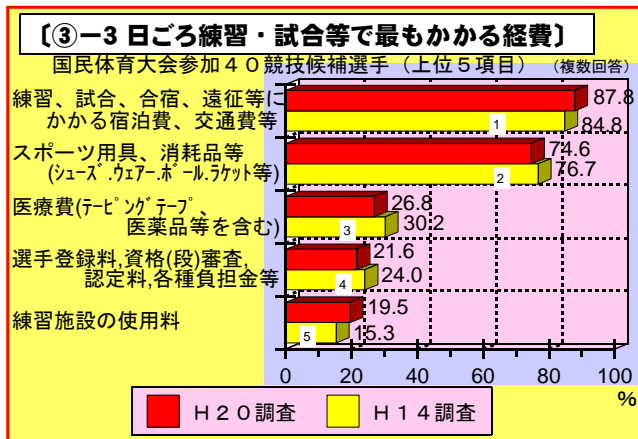
- ほとんどの指導者が、運動部活動への外部指導者の導入を積極的にすべきだと考えている。
- 約70%の指導者は、「選手の減少」「チーム運営費」を課題としてかかえている。
- 90%を超えた指導者が、「練習・合宿等に対する資金面での支援」「スポーツ人口拡大のための積極的な取り組み」を県に期待している。



③ 競技選手への調査について

- 競技歴は、「小学校から」が最も多く、「小学校入学以前から」が増えている。低年齢対象のスポーツ教室が盛んな競技は、早くからその競技に親しんでおり、年齢が低いときから始めた者ほど、好成績をおさめている割合が高い。
- 将来におけるスポーツとのかかわりについては、「生涯にわたり現在の競技を続けたい」が最も多く、「現在のスポーツを広めたい」の順となっている。
小学校から競技を続けている選手や競技成績・目標の高い選手ほど、指導者としてかかわりたいと回答している。また、「今のところ、考えていない」が25.1%あり、少年種別での回答が多く、今後の対応が重要である。
- 最も活動にかかる経費は、「練習・試合・合宿・遠征等の宿泊費、交通費」「スポーツ用具・消耗品等」となっている。
- 「スポーツにおけるドーピングの防止に関するガイドライン」については、前回調査よりも「知っている」と回答している割合が大幅に増えた。
- 競技選手がかかえている課題は、「経済的な負担」が最も多く、「上達しない」「練習時間の確保」の順となっている。
- 77.4%の競技者は、「練習・合宿等に対する資金面での支援」を県に期待している。





「第64回国民体育大会冬季大会」

2 スポーツ振興の基本的課題と基本理念



(1) 山梨のスポーツ振興の基本的課題

- ① 生涯を通じて、健康で豊かな生活を送ることができるように、積極的に運動に親しむ習慣や意欲、能力の育成、体力の向上、健康の保持増進のための実践力を図るとともに、食に関する指導の充実、危険から身を守る安全教育の推進等を図ることにより、「生きる力」の要素である「健やかな体」の育成に努めることが必要です。
- ② 県民が健康で豊かに生きるために、子どもから高齢者まで、一人ひとりが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでもスポーツに親しむことができる環境づくりが求められています。このため、スポーツに参加する機会の充実、指導者の養成・確保、スポーツ施設の充実、スポーツ情報の提供等が重要となっています。
- ③ 本県選手が各種の大会等で活躍することは、県民に夢や感動を与え、さらには、県民のスポーツに対する関心や参加意欲を喚起することにつながります。このため、各種競技において指導体制の充実やスポーツ交流の推進に努め、競技スポーツの振興や競技力の向上を図ることが重要です。

(2) 山梨のスポーツ振興の基本理念

**健康で明るい生活を支える
豊かなスポーツライフの実現**